

WILCOMM

 **ウィルフォームス**

Field Mapper Tutorial

MAP001 (Last Update : 2002/5/7)

© Copyright 1999
Wilkinson Computer Services Pty Ltd



< 前提 >

“Forms Designer Tutorial”で作成したフォームを使用しますので、先に必ず実施済みである事。

< 目標 >

次の事が出来る事を目標とします。

- スプールファイルとフォームの重ね合わせ印刷をするための基本知識を習得する。

< 内容 >

フィールドマッパー

- 重ね合わせの定義

< 備考 >

ウィルスプールにて、サンプルとして使用するソースファイルをPCファイルに変換するための基本知識につきましては、当チュートリアルの補足資料を参照して下さい。

フィールドマッパー

< 備考 >

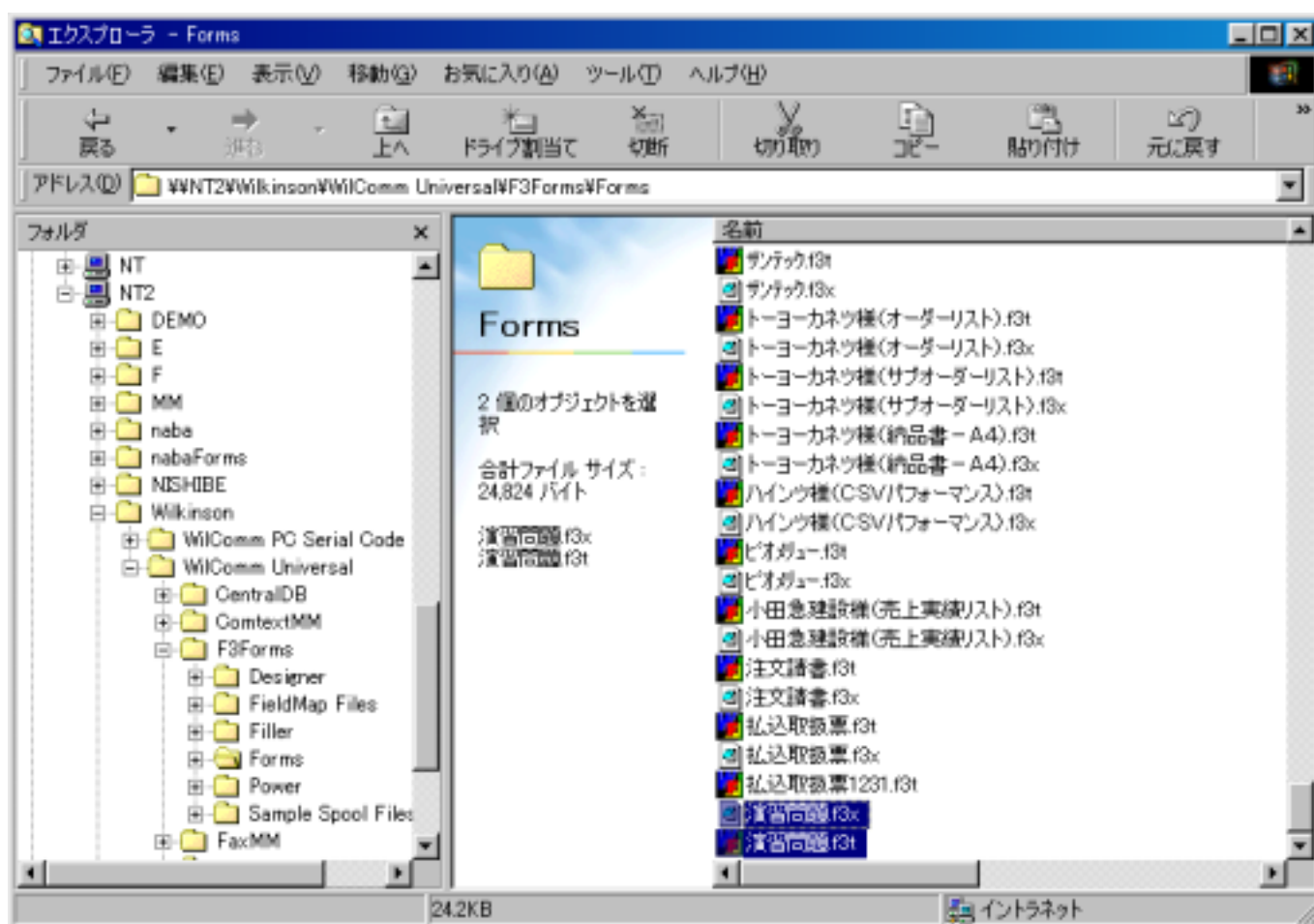
フィールドマッパーではサンプルスプールファイルとフォームを使用して重ね合わせの定義を作成します。 サンプルスプールファイルについては通常ウィルスプールを使用して取りこみますが、ここでは、この作業は行いません。 詳しくは当チュートリアルへの補足資料を参照してください。

当チュートリアルは上記作業が済んだものとして、CD、もしくは、フォルダー上の“Tutorial.map”というファイルを以下のフォルダーにコピーして使用いたします。

コピー先フォルダー：¥ Wilcomm ¥ F3forms ¥ Sample Spool Files

先に実施しました、“Forms Designer Tutorial”で作成した演習用サンプル・レイアウトのフォームを、以下のフォルダーにコピーします。

コピー先フォルダー：¥ Wilcomm ¥ F3Forms ¥ Forms

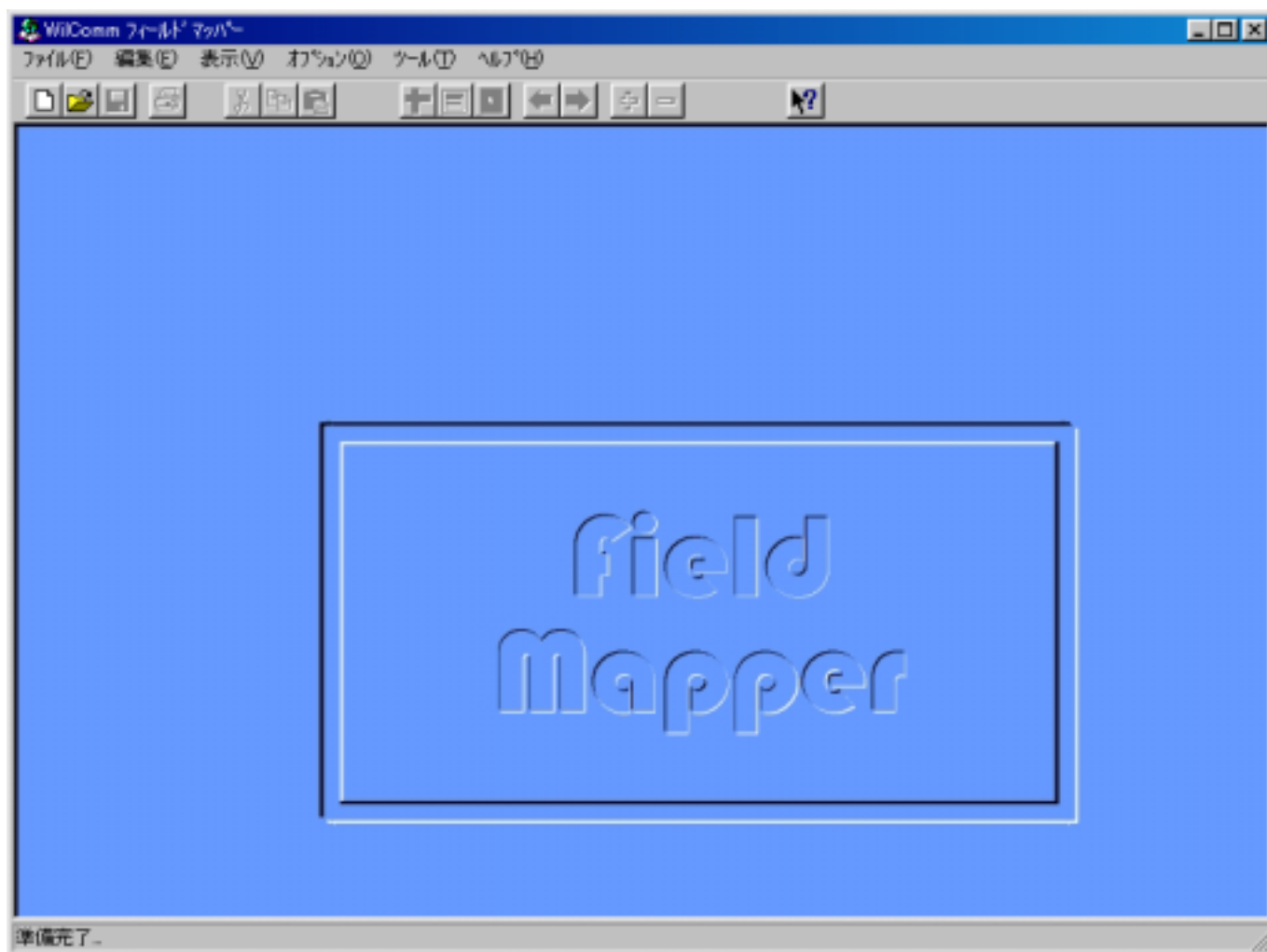


注意：作成したフォーム(拡張子 .f3t)と変数の抽出ファイル(拡張子 .f3x)の両方をコピーします。

重ね合わせの定義

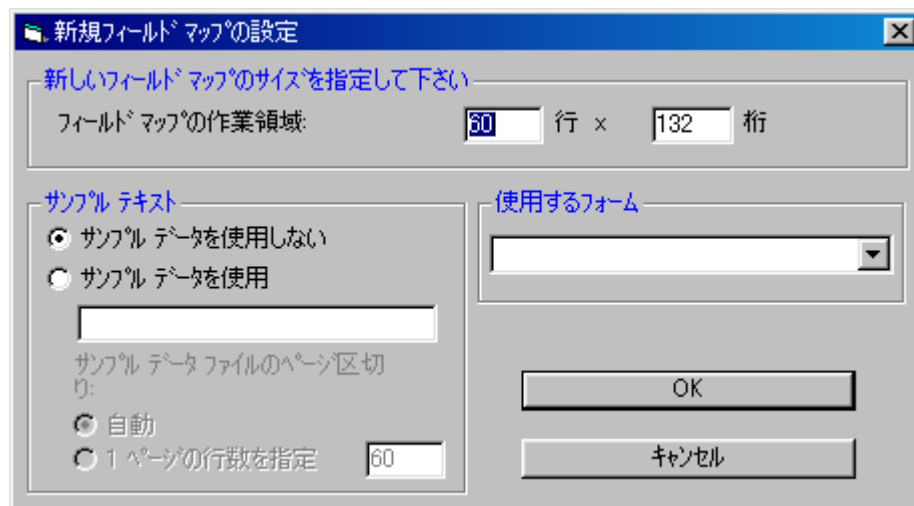
フィールドマッパーの起動

[スタート] - [プログラム] - [WilComm Universal] - [Field Mapper]を実行します。



マッピング(配置)の定義

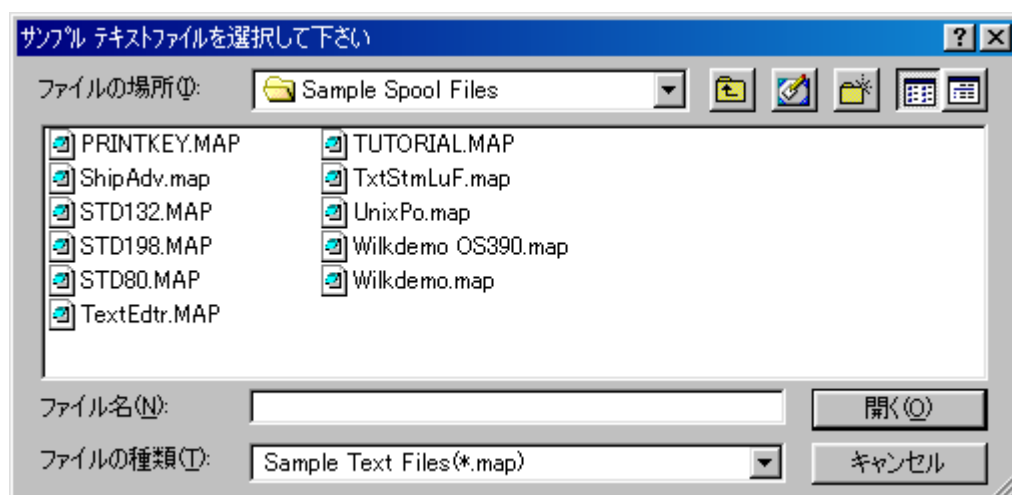
[ファイル] - [新規作成]を実行します。



フォームのサイズに関する入力を行います。この値は正確な値でなくても結構です。不明な場合には大きめと思われる値を入力して下さい。

当チュートリアルでは、フィールドマップの作業領域を60行×198桁に設定します。

サンプルテキストの“サンプルデータを使用”のラジオボタンをクリックします。



“TUTORIAL.MAP”を選択(クリック)し、[開く]を押します。(または、対象をダブルクリックします)

新規フィールドマップの設定

新しいフィールドマップのサイズを指定して下さい

フィールドマップの作業領域: 60 行 × 132 桁

サンプルテキスト

☐ サンプルデータを使用しない

☒ サンプルデータを使用

C:\Program Files\Wilkinson\WilC

サンプルデータファイルのページ区切り:

☒ 自動

☐ 1 ページの行数を指定 60

使用するフォーム

OK

キャンセル

使用するフォームのリストボックスを表示し、使用するフォームを選択します。

新規フィールドマップの設定

新しいフィールドマップのサイズを指定して下さい

フィールドマップの作業領域: 60 行 × 198 桁

サンプルテキスト

☐ サンプルデータを使用しない

☒ サンプルデータを使用

C:\Program Files\Wilkinson\WilC

サンプルデータファイルのページ区切り:

☒ 自動

☐ 1 ページの行数を指定 60

使用するフォーム

演習問題

OK

キャンセル

[OK]を押します。

WilComm フィールド マッパー - [Field Map 1]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) オプション(O) ツール(T) ヘルプ(H)

行: 24 列: 53 幅: 高さ: 実行: II(FAX)

01/01/25 16:25:27

*** 報告書 ***

SEQ	品目名称
1	テスト
2	テスト
3	テスト
4	テスト
5	テスト
6	テスト
7	テスト
8	テスト
9	テスト
10	テスト
11	テスト
12	テスト

合計金額 135,200.00
消費税額 6,760.00
総計額 141,960.00

フォーム: 演習問題 データ: TUTORIAL.MAP ズーム: 100% ページ: 1/1 ページ/総数: 1

画面以上に選択されたスプールファイルがテキスト形式で表示されます。この画面を使用してフォーム上のフィールドとの関連付けを行います。

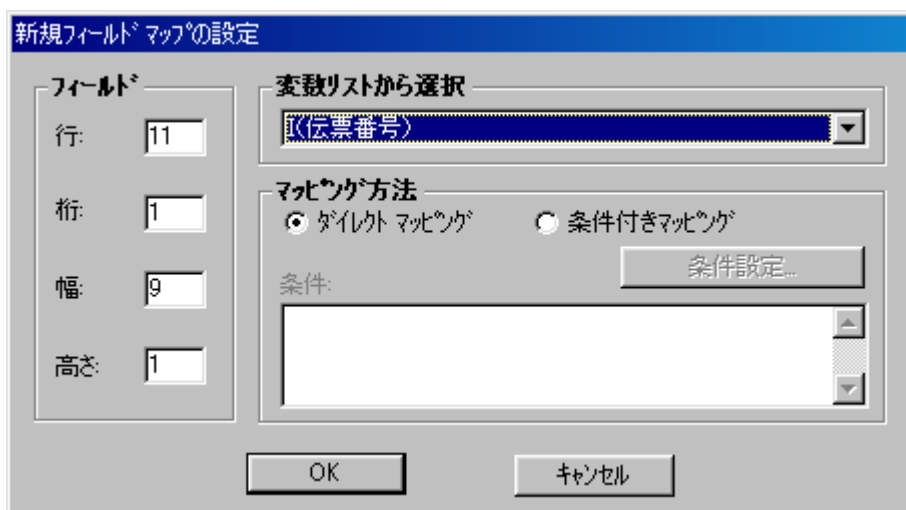
“Forms Designer Tutorial”で使用した演習用サンプルリストを元に、マッピング(配置)の定義を行います。

< 伝票番号のマッピング >

スプールファイル上の伝票番号にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

マウスでドラッグして囲んだ領域が正しくない場合などは、この画面上にて位置を修正します。

この画面はドラッグした領域を選択(クリック)し、[編集] - [フィールドプロパティ]で表示されます。

対象領域をドラッグし、“新規フィールドマップの設定”画面で設定を行い、[OK]を押すと下記のメイン画面が表示され、対象領域(ドラッグして囲んだ領域)がテキスト枠で囲まれます。

The screenshot shows the 'WilComm フィールド マッパー - [Field Map 1]' window. The interface includes a menu bar (File, Edit, View, Options, Tools, Help), a toolbar with various icons, and a status bar at the bottom.

The main area displays a grid representing a field map. The grid is divided into several sections:

- Top Left:** Contains date and time information: 01/01/25 16:25:27.
- Top Center:** Contains a header for the report: <<<*****受注確認書*****>>>.
- Top Right:** Contains a table with columns 'SEQ' and '品目名称' (Item Name).
- Bottom Left:** Contains a table with columns 'SEQ' and '品目名称'.
- Bottom Center:** Contains a summary table with columns '合計金額' (Total Amount), '消費税額' (Consumption Tax Amount), and '総計額' (Total Amount).
- Bottom Right:** Contains a footer with the text '*** 報告書の終り ***'.

The status bar at the bottom shows: フォーム: 演習問題 | データ: TUTORIAL MAP | スケール: 100% | ページ: 1/1 | ページ/数: 1.

<宛先1のマッピング>

スプールファイル上の宛先にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



新規フィールド マップの設定

フィールド

行: 11

桁: 14

幅: 41

高さ: 1

変数リストから選択

マッピング方法

☒ ダイレクト マッピング ☐ 条件付きマッピング

条件: 条件設定...

OK キャンセル

“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



新規フィールド マップの設定

フィールド

行: 11

桁: 14

幅: 41

高さ: 1

変数リストから選択

マッピング方法

☒ ダイレクト マッピング ☐ 条件付きマッピング

条件: 条件設定...

OK キャンセル

[OK]を押します。

<宛先2のマッピング>

スプールファイル上の宛先にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



新規フィールド マップの設定

フィールド

行: 11

桁: 56

幅: 41

高さ: 1

変数リストから選択

マッピング方法

☒ ダイレクト マッピング ☐ 条件付きマッピング

条件: 条件設定...

OK キャンセル

“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



新規フィールド マップの設定

フィールド

行: 11

桁: 56

幅: 41

高さ: 1

変数リストから選択

1(宛先2)

マッピング方法

☒ ダイレクト マッピング ☐ 条件付きマッピング

条件: 条件設定...

OK キャンセル

[OK]を押します。

< 宛名のマッピング >

スプールファイル上の宛名にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

< FAXのマッピング >

スプールファイル上のFAX番号にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

< Mailのマッピング >

スプールファイル上のMAILにカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

< 日付のマッピング >

スプールファイル上の日付にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

<時刻のマッピング>

スプールファイル上の時刻にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

< №のマッピング >

№はテーブル上のフィールドとなりますが、操作は単独フィールドのマッピング操作と変わりません。
ただし、テーブルの場合は必要とされる行数を設定する必要があります。

スプールファイル上のSEQにカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。

演習用サンプルレイアウトの明細は14行ありますので、“フィールド”の高さに“14”を入力します。

サンプルスプールファイルでは明細行は12行ですが、レイアウトに出力(印字)される最大行数を必ず指定するようにします。

“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。

[OK]を押します。

< 品目名称のマッピング >

品目名称はテーブル上のフィールドとなりますが、操作は単独フィールドのマッピング操作と変わりません。
ただし、テーブルの場合は必要とされる行数を設定する必要があります。

スプールファイル上の品目名称にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。

新規フィールド マッピングの設定

フィールド

行: 12

桁: 89

幅: 18

高さ: 1

変数リストから選択

マッピング方法

☒ ダイレクト マッピング ☐ 条件付きマッピング

条件: 条件設定...

OK キャンセル

演習用サンプルレイアウトの明細は14行ありますので、“フィールド”の高さに“14”を入力します。

サンプルスプールファイルでは明細行は12行ですが、レイアウトに出力(印字)される最大行数を必ず指定するようにします。

“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。

新規フィールド マッピングの設定

フィールド

行: 12

桁: 81

幅: 3

高さ: 1

変数リストから選択

マッピング方法

☒ ダイレクト マッピング ☐ 条件付きマッピング

条件: 条件設定...

OK キャンセル

[OK]を押します。

< 数量のマッピング >

数量はテーブル上のフィールドとなりますが、操作は単独フィールドのマッピング操作と変わりません。
ただし、テーブルの場合は必要とされる行数を設定する必要があります。

スプールファイル上の数量にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。

演習用サンプルレイアウトの明細は14行ありますので、“フィールド”の高さに“14”を入力します。
サンプルスプールファイルでは明細行は12行ですが、レイアウトに出力(印字)される最大行数を必ず指定するようにします。

“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。

[OK]を押します。

< 単価のマッピング >

単価はテーブル上のフィールドとなりますが、操作は単独フィールドのマッピング操作と変わりません。
ただし、テーブルの場合は必要とされる行数を設定する必要があります。

スプールファイル上の単価にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



演習用サンプルレイアウトの明細は14行ありますので、“フィールド”の高さに“14”を入力します。
サンプルスプールファイルでは明細行は12行ですが、レイアウトに出力(印字)される最大行数を必ず指定するようにします。

“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

< 金額のマッピング >

金額はテーブル上のフィールドとなりますが、操作は単独フィールドのマッピング操作と変わりません。
ただし、テーブルの場合は必要とされる行数を設定する必要があります。

スプールファイル上の金額にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



演習用サンプルレイアウトの明細は14行ありますので、“フィールド”の高さに“14”を入力します。
サンプルスプールファイルでは明細行は12行ですが、レイアウトに出力(印字)される最大行数を必ず指定するようにします。

“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

マッピング情報の確認

[表示] - [マッピング情報]を実行します。

変数名	マッピングステータス	合計マッピング数
I(宛先1)	YES	1
I(宛先2)	YES	1
I(宛名)	YES	1
I(合計)	NO	0
I(時刻)	YES	1
I(伝票番号)	YES	1
I(日付)	YES	1

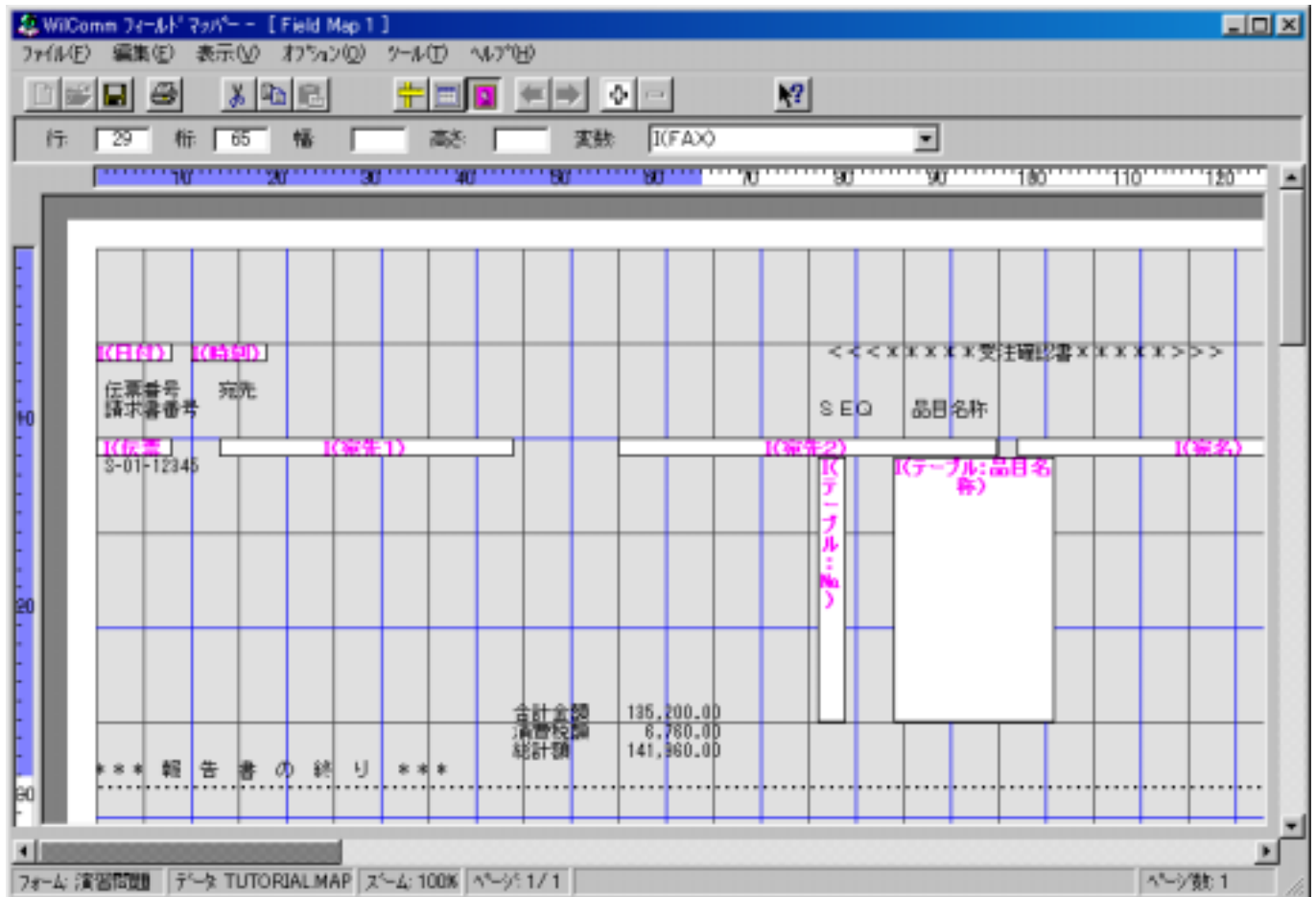
合計: 13

OK

フォーム上のフィールドのうち、マッピング(配置)の定義がされていないものを、画面上で確認することができます。マッピングステータスが“NO”と表示されているものが、未定義です。

マッピングされたフィールド名の確認

[オプション] - [フィールド名表示]を実行します。



マッピングされたスプールデータの各項目毎のフィールド名が画面上に表示されます。

再度、[オプション] - [フィールド名表示]を実行すると、もとの表示に戻ります。

< 合計 (合計・消費税・総計) のマッピング >

スプールファイル上の合計金額・消費税額・総計額にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



[OK]を押します。

演習用サンプルレイアウトのフォームでは、合計・消費税・総計をテーブルで作成しました。それぞれ、違う要素 (意味) の項目ですが、1つのテーブルとみなしてマッピングします。

< 請求書番号 (バーコード) のマッピング >

バーコードのマッピングはバーコード変換元フィールドにマッピングを行い、ウィルフォームで自動でバーコード変換を行います。

スプールファイル上の請求書番号にカーソルを合わせドラッグしますと下記画面が表示されます。



“変数リストからの選択”で、フォームで作成したフィールド名を選択します。



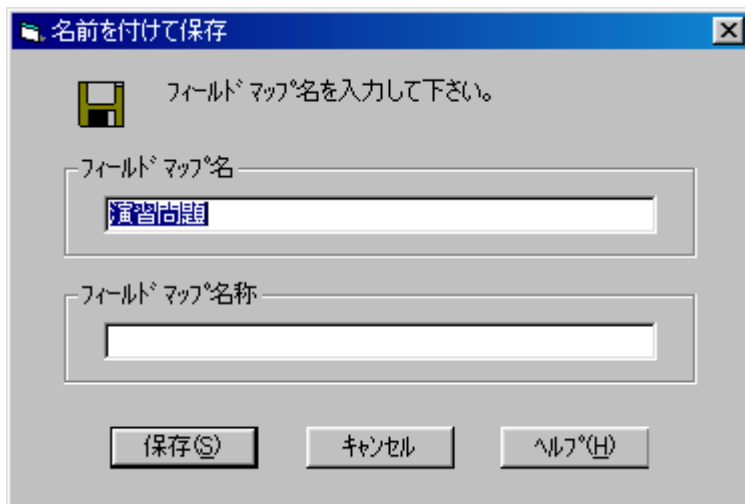
実際のバーコードは上記フィールド名を参照して、自動変換されます。

[OK]を押します。

これにて、重ね合わせ (マッピング) 情報の定義は終了です。

重ね合わせ(マッピング)情報の保管

[ファイル] - [名前を付けて保存]を実行します。



フィールドマップ名を入力(選択したフォーム名が初期表示されています)し、[保存]を押します。